



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2010年9月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

改正臓器移植法について



脳神経外科部長 宮森 正郎

2010年7月17日、改正臓器移植法が施行されました。当院は、2005年に日本脳神経外科学会の専門医訓練施設のA項認定を受け、2006年当院倫理委員会において脳死下臓器提供に関する法的脳死判定などが承認されました。以上の経緯により、当院は脳死下臓器提供施設（全国で338施設）となっています。

1997年に制定された臓器移植法施行後の12年間に行われた約80例の脳死下臓器移植と同じ数が、制定後1年間に行われるという急激な脳死下臓器移植増加の予測もあり、実際に改正法施行後、10例（9月19日現在）のハイペースで脳死下臓器提供がなされています。

改正臓器移植法のポイントは、1) 家族の^{そんたく}忖度で脳死下臓器提供が可能となったこと、2) 15歳未満の小児からの脳死下臓器提供が可能となったこと、3) 親族への優先臓器提供が可能となったことなどです。

この改正法が制定された背景には、2008年に国際移植学会が他国へ渡航して移植を受けることを原則禁止した（イスタンブール宣言）ことがあり、今回の臓器移植法の改正に至ったものと思われます。

脳死下臓器提供者の数が増加することは、きわめて望ましいと考えますが、特に小児例においての課題、問題点が以下の理由で予測され気になります。

旧来の移植法では、臓器の提供に関する個人の生前意思が民法上の遺言と同等とみなされたために、民法上の遺言が有効である15歳以上でなければ臓器提供ができませんでした。しかし、改正法では家族が個人の意思を忖度することで臓器提供が可能となりました。その結果、改正法では家族が承諾すれば、小児からの臓器提供が可能となりました。しかし、その際に法律を運用したときだけが“脳死は人の死”であることから、家族による“死の決定”が法律運用の前提となっており、特に小児の脳死下臓器提供に際して家族には大きな心理的負担が及ぶことが危惧されます。家族への心理的サポートが重要となってくるでしょう。

Contents

改正臓器移植法について	1
研修・講演・勉強会のご案内	2,3
9月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
診療所・病院・施設訪問	4
地域医療支援病院委員会を開催いたしました	5
医療機器研修会の開催についてのお知らせ	5
がん地域連携バス 8月25日に説明会を開催	6
医事課から	7
医師不在のお知らせ	7
認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ ...	8
編集後記	8

1. 地域連携・開放型病床症例検討会

10月 日時：10月12日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂
ミニレクチャー：「創傷被覆材の使い方」



形成外科 置塩 良政

最近では、いわゆるmoist wound healing の考え方が一般的になり、創は乾燥させないで湿潤環境の方がなおりが良いということが普及してきました。この考え方にあわせて開発されたのが創傷被覆材です。

一般的に、皮膚欠損用創傷被覆材は保険適応上、A.真皮に至る創傷用、B.皮下組織に至る創傷用、C.筋・骨に至る創傷用、の3種類に分類されています。また、これとは別に、創傷被覆・保護材やフィルム・ドレッシング材などもあります。現在、たくさんの商品が次々と開発・販売されており、

どれを使用すればよいのか迷ってしまうことがあります。

このうち、日常の診療の現場で最もよく使用されるのは上記AとBだと思われませんが、日本褥瘡学会のガイドラインによれば、創傷被覆材の機能は、創面を閉鎖し、創面に湿潤環境を形成する、乾燥した創を湿潤させる、浸出液を吸収し保持する、などであり、各被覆材はそれぞれに特徴があるので、その特徴を理解して使用することが大切です。

今回はこれらの特徴について説明いたします。

症例検討

- ・アルドステロン症が疑われた腎癌合併高血圧の1例（67歳 男性）

紹介医：大沢野クリニック 古谷田裕久先生 腎臓内科 泉谷 省晶

- ・踵に生じた悪性黒色腫の1例（85歳 女性）

紹介医：大沢野中央診療所 中山 哲規先生 皮膚科 野村 佳弘

11月 日時：11月9日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂
ミニレクチャー：「胎児心エコーについて」

小児科 橋本 郁夫

2. 内科CPC



日時：10月12日（火）17：30～
場所：医局カンファレンス室

3. とやまレントゲン読影会



日時：10月15日（金）19：00～20：00
場所：集団指導室

4. 糖尿病研究会定例学習会



日時：10月7日（木）17：30～18：30
場所：集団指導室

テーマ 「糖尿病の検査」
講師 臨床検査技師 高木 奈津子

5. 緩和医療委員会学習会



日時：10月12日（火）18：00～19：00
場所：集団指導室

テーマ 「症状マネジメント(消化器症状)」
講師 緩和ケア内科医師 船木 康二郎

6. 第2回 腎臓病教室



日時：10月20日（水）14：30～16：30
場所：集団指導室

医師、臨床検査技師、管理栄養士、薬剤師、看護師、医事課職員が慢性腎臓病について、それぞれの立場から講義をいたします。



7. プレストケア（乳がん看護）勉強会

日時：10月21日（木）18：00～19：00
場所：1階 デイケア ミーティング室

テーマ 「乳がん術後（温存療法後）の放射線療法を受ける患者の看護」

講師 放射線科副看護師長 寺井 久美子
今年度、第2回乳がん看護勉強会を行います。興味のある方はお気軽に参加してください。
（担当）プレストケアエキスパートナース 谷川 二美子

8 . 褥瘡対策学習会

日時：10月22日（金）17：45～

場所：医局カンファレンス室

テーマ 「褥瘡治療に用いる薬剤」
「創傷被覆剤」

講師 皮膚科医師 野村 佳弘
形成外科医師 置塩 良政

日頃ケアしている患者さんの褥瘡について検討を希望される方は、褥瘡部の写真を3日前までにふれあい地域医療センターまでお送り下さるか、当日ご持参ください。

9 . NST学習会

日時：10月25日（月）18：00～19：00

場所：講堂

テーマ 「胃ろう造設、管理について」

講師 消化器内科医師 蓑内 慶次

10 . 地域医療学習会 腹膜透析セミナー

日時：10月27日（水）17：45～19：30

場所：集団指導室

テーマ 「腹膜透析のしくみ」
「腹膜透析機器の
デモンストレーション」

講師 透析看護認定看護師 松木 理浩

11 . 富山地域リハビリテーション研修会

日時：10月29日（金）17：30～19：00

場所：講堂

テーマ 「認知症の人をみる」
～BPSDの理解と対応～

講師 金城大学社会福祉学部准教授 木谷 尚美氏

12 . 看護研修

《衛星研修S - QUE Eナース》

日時：10月 6日（水）18：00～19：20

場所：講堂

テーマ 「糖尿病とフットケア」

日時：10月20日（水）18：00～19：20

場所：講堂

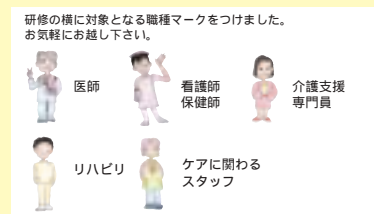
テーマ 「エビデンスに基づいた実践とはどのようなものか知ろう」

《衛星研修S - QUE 新医療看護連携》

日時：10月27日（水）18：00～19：30

場所：講堂

テーマ 医療の安全に関する研修
「院内感染対策研修」



《連載企画》診療所・病院・施設訪問 66 藤澤医院

今回は「藤澤医院」を訪問させていただきました。

名 称	藤澤医院
住 所	富山市八尾町福島204
医 師	藤澤 貞志 先生（院長）
標 榜 科	内科
診察日・時間	平 日 9：00～12：30 14：00～18：00 土曜日 9：00～12：30 木曜日午後・土曜日午後・日曜・祝日 休診
施 設 区 分	無床診療所

訪問記



藤澤先生



藤澤医院スタッフの皆様



藤澤医院前景

恵の雨が降った9月8日、おわら風の盆や坂道などが有名な風情ある町“越中八尾”で開業されている藤澤医院を訪問させていただきました。

藤澤医院は、前院長である藤澤貞信先生が八尾で開業されてから数え60年と伺いました。家庭的な雰囲気の待合室には、地域の方への糖尿病教室や感染症予防のポスターなどの医療情報が掲示され、地域の方々がさまざまな医療情報を得やすいように心配りしていらっしゃるのが伝わってきます。

先生は、診察や往診のほか、保育所の園医、あざみ苑や地元企業の嘱託医等、幅広く地域の方々のホームドクターとしてご活躍されています。また病歴の長い患者さんや気になる患者さんはいつでも先生に電話をかけることができるという体制を整えていると伺いました。お話をうかがっている間にも、何人かの患者さんから相談の電話があり、対応をされていました。そのきめ細やかな対応に先生の優しさを垣間見たような気がしました。

藤澤医院のスタッフは地元八尾の方が多く先生を含め6名、気心の知れた仲間とのことです。いつも和やかな雰囲気での診療し、患者さんとの何気ない世間話からも患者さんの病気だけでなく家庭環境など患者さんの背景も考えるように心がけていると話しておられました。先生と患者さんとの間は、強い信頼関係で結ばれているということを感じました。

当院との医療連携においても大変ご理解をいただき、多くの患者さんを紹介していただいております。また、地域連携・開放型病床症例検討会などへも本当によく足を運んでいただいております。うれしく思っております。

先生そして同席された素敵な奥様とお昼の貴重な休み時間を過ごさせていただきましたが、お電話の声から感じていたおりの柔和なお人柄であり、気さくに話して下さる先生に、今後とも顔の見える連携をさせていただきたいと強く思いました。

雨の中、見送っていただき、またお忙しい中、訪問させていただきありがとうございました。

地域医療支援病院委員会を開催いたしました

地域医療支援病院委員会では、当院が地域の医療機関からの要請に適切に対応し、地域医療の確保に必要な支援を行うことを目的に運営しております。

去る8月31日に、本年2回目の委員会を開催いたしました。

会議では、事務局より7月までの業務実績、院外講演の現況報告について報告し、地域医療連携のあり方などについて幅広くご意見をいただきました。また、がん地域連携パスの運用について説明し、地域医療の課題解決に向けた対応策等について理解を深めました。



臨床工学技士主催

医療機器研修会の開催についてのお知らせ

検査や治療などに使用する医療機器の発展は目ざましく、機器の電子化・高度化が進んでいます。その反面、これらの医療機器を熟知し有効に活用しなければ確実な検査や十分な治療が行えないどころか、患者さんに大きな被害を与えてしまうこともあります。そこで当院では、昨年より医療機器を対象とした研修会を月に1度（おもに第1週火曜日）集団指導室で開催しています。この研修会では機器の特性や原理、アラーム対処やヒヤリハット事例など、安全に使用するための



基礎知識習得を目的に行っています。これまでは不注意に起因する事故が非常に多い医療ガス（酸素ボンベ等）、いまだにヒューマンエラーが絶えない輸液ポンプ、受信不良・混信・入力ミスなど患者間違いを引き起こす病棟テレメータなどの研修会を開催してきました。今後は身近な機器であるネブライザーやエアーマットなどの研修会を予定しています。また少数制で実際の機器を使用した、より実践的な実技研修会も組み込む計画です。



実践的な実技研修会も組み込む計画です。

これらの研修会では院内のみならず、地域医療機関のスタッフの皆さまにも自由にご参加いただき、研修会をとおして日頃感じている疑問や不安など解消していただければと考えております。

興味のある方は是非、ご参加いただければ幸いです。

臨床工学技士 熊代 佳景

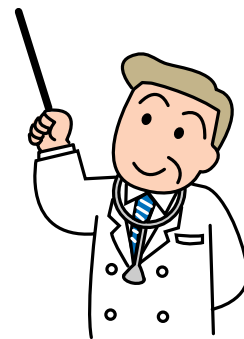
がん地域連携パス 8月25日に説明会を開催

平成18年に制定されたがん対策基本法は、がんの予防及び早期発見の推進・がん医療の均てん化の促進・研究の推進を謳っており、これに基づいて平成19年にがん対策推進計画が策定されました。その中に原則すべての2次医療圏に拠点病院を配置して5大がんの地域連携クリティカルパスを整備すると明記されています。この計画は5年ごとに見直すことになっており本年6月に中間報告がなされました。地域連携パスは平成23年10月末までに整備することになっていましたが、平成21年



9月時点で連携パス一部策定拠点病院は99施設(26.4%)、全て策定は25施設(6.7%)にとどまっています。平成22年度の診療報酬改訂でパスが評価されたことから一気に策定が進むものと予想されます。

富山県は各拠点病院が幹事を決めて統一のパスを策定する準備を進めてきました。当院は胃がんと大腸がんの連携パスを策定することになっており、8月25日に地域の医療機関の方をお招きして説明会を開催しました。



医事課からは、富山県がん診療連携クリティカルパスについて連携させていただくための事務手続きについて説明させていただきました。

富山県がん診療連携クリティカルパスを用いて、当院と連携して治療を行うことにより、“がん治療連携指導料”（連携地域医療機関が算定）を算定できるようになります。指導料は、パスに基づき、外来医療、在宅医療を提供し、診療情報提供書を計画策定病院に提供した場合に、月1回に限り300点算定できます。

これらの算定のためには、施設基準の届出書を東海北陸厚生局へ提出する必要があります。施設基準の届出書 1（様式 別添2）は、各地域医療機関の名称や連絡先・医療機関コード等について記載し、押印が必要です。また、添付書類 2（様式 13の3）については、当院と連携を希望される場合は、当院の名称と連絡先を記入いただき、治療を担うがんの種類を欄に連携していただけるがんの名称（胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん）を記載し、当院へそれぞれ2部ご提出ください。当院でまとめて届出いたします。（これらの用紙は東海北陸厚生局のホームページからもダウンロードすることが出来ますが、ご連絡をいただければ郵送いたします）

なお、届出書は連携先の病院にそれぞれ提出していただく必要がありますので、県立中央病院や富山大学付属病院といった他の病院とも連携を希望される場合は、それぞれの病院にお問い合わせのうえ必要な書類をご提出ください。

当院といたしましては、地域の医療機関の皆様方と協力して取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

特掲診療科の施設基準等に係る届出書

1. 施設基準の届出書（様式 別添2）

がん治療連携指導料の施設基準に係る届出書添付書類

2. 添付書類（様式 13の3）



医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

10月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	13日・14日・18日	石田	整形外科・関節再建外科	1日・8日	澤口
	12日	中村		7日	島
	13日・14日	樋上		1日	坂越
	1日	泉谷	精神科	5日	吉本
	21日	打越		20日・22日	長谷川
皮膚科	25日	齋藤	泌尿器科	22日	元井
呼吸器・血管外科	26日	瀬川		18日、20日	児玉
外科・乳腺外科	14日・25日	泉	小児科	12日	橋本
	1日	天谷		1日・29日	金田
形成外科	18日・22日・28日・29日	置塩		14日	小西

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。



認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ



ブレストケア エキスパートナース編

乳がんは、年々増加し、日本の女性が最もかかりやすいがんとなっています。年齢分布では、人生で一番大事な時期（壮年期）に罹患し、家庭では妻であり母であり、また仕事では社会的立場の中心にある患者さんが多いのが特徴です。

私たちブレストケアエキスパートナース4人は、乳がん看護に携わる看護師として、また患者さんの一番身近な同性のアドバイザーとして、受診された時から病気に対する正しい理解と告知後の

精神的援助・治療の意思決定支援に関わっています。患者さんは、手術療法、化学療法、放射線療法、ホルモン療法と治療が続きますが、それぞれが外来・病棟・外来治療室に所属して患者さんの情報を共有し、継続看護を行っています。具体的には、リンパ浮腫に対する予防と看護援助、補正下着やかつらの相談、化学療法時のケアなどに携わっています。

また、当院には乳がん手術後の患者会『ひまわりの会』があります。闘病の悩みや辛さを経験された患者さんがお互いを勇気付け、前向きに病気と向き合い共に歩んでいく会です。そして年4回の定例会、おしゃべり会、レクリエーション(日帰り温泉)などを会員の方々とともに、企画運営の手助けを行っています。

その他に、院内や地域に向けてのブレストケア勉強会を年3回開催しています。また、富山BCN (Breast Care Nurse) サポートチームのメンバーとしてもセミナーの開催や、毎年10月に開催されるピンクリボンキャンペーン(乳がん早期発見の大切さを伝える)活動にも参加しております。

今後も、乳腺診療における様々な視点から看護を考え、お互いのレベルアップを図り、活動していきたいと思っております。

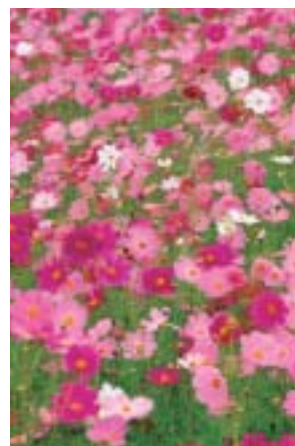


編集後記

ふれあい地域医療センターへ異動となり、退院調整を担当して、3年目となりました。院内外の皆様にご指導いただきながら、地域連携の一端を担わせていただき、日々感謝しております。

4月の診療報酬の改定において、退院調整部門に関連して「介護支援連携指導料」が新設となりました。在宅復帰支援において病院が果たすべき『医療と介護を切れ目なく繋ぐ』という役割をより明らかにする形となりました。私たち退院調整担当者は、患者さん・ご家族を支えるチームの一員として、地域医療という輪を大切に、より質の高い退院支援を目指していきたいと思っております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

ふれあい地域医療センター看護師 塩澤 まゆみ



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp